

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪情報専門学校
設置者名	学校法人電子開発学園九州

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	大学併修学科	夜・通信	360 時間	320 時間	
	ソフトウェア開発学科	夜・通信	270 時間	240 時間	
	ソフトウェア制作学科	夜・通信	210 時間	160 時間	
	パソコン応用学科	夜・通信	210 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ocs.ac.jp/other/pdf/j-kamoku.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪情報専門学校
設置者名	学校法人電子開発学園九州

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校事務室備付の役員名簿を閲覧させる

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	R2.6.27 ~ R4.6.26	経理・財務
非常勤	株式会社役員	R2.6.27 ~ R4.6.26	法人経営
(備考) 外部理事 総数3名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪情報専門学校
設置者名	学校法人電子開発学園九州

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定し、シラバスを4月初旬に公表している。</p> <p>実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。それらのシラバスは、要求に応じて、いつでも閲覧できるよう職員室に設置するとともに、学生には学生用校内ファイルサーバーを介して公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者には学校事務室備付の「シラバス」を閲覧させる ・学生には学生用 Web サーバで公表
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優、良、可、不可)で行っている。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学ではG P Aを導入していないものの、5段階の成績評価(秀・優・良・可・不可)を設けることで客観的な指標としており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優、良、可、不可)で行っている。また、成績の分布状況については、科目成績の素点の平均を順位付けして、半期毎に通知する成績通知書に対象学科における「学年順位」を記載しており、学生は自身の成績が下位4分の1に入っていないかを把握できるようにしている。なお、「学生生活の手引き」は、要求に応じて、いつでも閲覧できるよう職員室に設置するとともに、学生には年度初めに配布している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページアドレス https://www.ocs.ac.jp/other/j_koukai/02_gaka_sen.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><卒業の認定方針></p> <p>教育理念及び目標とする人材像に基づき、実践的なIT人材として必要な以下の能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の科目を履修した学生に対して卒業を認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報システム開発の知識と技術を修得し問題解決に活用できる ・コミュニケーション力を持ち、他者と協働できる ・倫理観を持って行動できる <p><実施に係る取組></p> <p>「修業年限以上在籍」については主に出席状況、「所定の科目を履修」については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ、問題がある場合は適宜フォローを行いながら進級・卒業指導を行い、年度末の「進級・卒業判定会議」を経て、校長が進級・卒業を認定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページアドレス https://www.ocs.ac.jp/other/j_koukai/01_gai_moku.pdf</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪情報専門学校
設置者名	学校法人電子開発学園九州

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	希望者には学校事務室備付の「貸借対照表」を閲覧させる
収支計算書又は損益計算書	希望者には学校事務室備付の「収支計算書」を閲覧させる
財産目録	希望者には学校事務室備付の「財産目録」を閲覧させる
事業報告書	希望者には学校事務室備付の「事業報告書」を閲覧させる
監事による監査報告（書）	希望者には学校事務室備付の「監事による監査報告書」を閲覧させる

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	大学併修学科 大学システム専攻		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3690 単位時間	745 単位時間	1845 単位時間	1100 単位時間	単位時間	単位時間
			3690 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
220人		235人	0人	7人	8人	15人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。
成績評価の基準・方法

<p>(概要)</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優、良、可、不可）で行っている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	0人 (0.0%)	39人 (100%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) システム開発会社、システムインテグレータ、情報通信企業など			
(就職指導内容) 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 《資格取得者数》 基本情報技術者(国)62名、応用情報技術者(国)23名、情報処理安全確保支援士(国)3名、高度情報技術者試験(国)3名、オラクルマスター50名等			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
203人	5人	2.5%

(中途退学の主な理由) 病気、進路変更、経済的理由など
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	大学併修学科 大学ゲーム専攻		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3840 単位時間	740 単位時間	1720 単位時間	1380 単位時間	単位時間	単位時間
			3840 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
220 人の内数		20 人	0 人	7 人の内数	8 人の内数	15 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優、良、可、不可)で行っている。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。
学修支援等
(概要) 中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6人 (100%)	0人 (0.0%)	6人 (100%)	0人 (0.0%)
（主な就職、業界等） システム開発会社、システムインテグレータ、ゲーム開発会社など			
（就職指導内容） 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等			
（主な学修成果（資格・検定等））《資格取得者数》 基本情報技術者(国)7名、応用情報技術者(国)1名、情報セキュリティマネジメント(国)2名、ITパスポート11名等			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	3人	13.6%
（中途退学の主な理由） 病気、進路変更など		
（中退防止・中退者支援のための取組） スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門	大学併修学科 大学ビジネス専攻		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3780 単位時間	840 単位時間	1890 単位時間	1050 単位時間	単位時間	単位時間
		3780 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
220人の内数	13人	0人	7人の内数	8人の内数	15人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優、良、可、不可）で行っている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	0人 (0.0%)	3人 (100%)	0人 (0.0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>システム開発会社など</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））《資格取得者数》</p> <p>基本情報技術者(国)2名、ITパスポート(国)7名、日商簿記7名</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14人	1人	7.1%
(中途退学の主な理由) 経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	大学併修学科 大学医療情報専攻		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3750 単位時間	825 単位時間	1875 単位時間	1050 単位時間		
			3750 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
220人の内数		25人	0人	7人の内数	8人の内数	15人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優、良、可、不可)で行っている。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。

学修支援等
(概要) 中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 ()	-人 ()	-人 ()	-人 ()
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等			
(主な学修成果(資格・検定等))《資格取得者数》 基本情報技術者(国)7名、応用情報技術者(国)2名、ITパスポート(国)10名、医療情報基礎知識検定12名等			
(備考) (任意記載事項) 本専攻は平成30年度開設のため卒業生はなし。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
工業	工業専門	ソフトウェア開発学科 システム専攻	○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 2720 単位時間	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼		720 単位時間	1080 単位時間	920 単位時間	単位時間	単位時間	2720 単位時間
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
120人	79人	0人	4人	9人	13人			

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優、良、可、不可）で行っている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 （100%）	0人 （0%）	24人 （96.0%）	1人 （4.0%）
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>システム開発会社、システムインテグレータなど</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））《資格取得者数》</p> <p>基本情報技術者(国)30名、応用情報技術者9名、高度情報技術者試験(国)1名、情報セキュリティマネジメント(国)2名、オラクルマスター22名、Java Programmer 5名等</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
82人	3人	3.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門	ソフトウェア開発学科 ゲームクリエイト専攻	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2900 単位時間	620 単位時間	1100 単位時間	1180 単位時間		
			2900 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人の内数	19人	0人	4人の内数	9人の内数	13人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優、良、可、不可)で行っている。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。

学修支援等 (概要) 中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	6人 (85.7%)	1人 (14.3%)
(主な就職、業界等) システム開発会社など			
(就職指導内容) 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等			
(主な学修成果(資格・検定等))《資格取得者数》 基本情報技術者(国)6名、応用情報技術者(国)1名、情報セキュリティマネジメント(国)3名、ITパスポート(国)3名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
工業	工業専門	ソフトウェア開発学科 ネットワーク専攻	○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼	2840 単位時間	750 単位時間	1160 単位時間	930 単位時間	単位時間	単位時間	2840 単位時間
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			

120 人の内数	4 人	0 人	4 人の内数	9 人の内数	13 人の内数
----------	-----	-----	--------	--------	---------

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018 年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優、良、可、不可）で行っている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	5 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>システム開発会社、システムインテグレータなど</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））《資格取得者数》</p> <p>基本情報技術者(国)6名、応用情報技術者(国)1名、情報セキュリティマネジメント(国)2名、ITパスポート(国)3名</p>			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	ソフトウェア開発学科 AIプログラム専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2720 単位時間	770 単位時間	1080 単位時間	870 単位時間		
			2720 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人の内数		13人	0人	4人の内数	9人の内数	13人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優、良、可、不可)で行っている。
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。

学修支援等
(概要) 中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
-人 ()	-人 ()	-人 ()	-人 ()
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 《資格取得者数》			
(備考) (任意記載事項) 本専攻は令和2年度新設のため卒業生はなし。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
-人	-人	-%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門	ソフトウェア制作学科 プログラム専攻	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間	550 単位時間	570 単位時間	680 単位時間	単位時間	単位時間
		1800 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		

100人	56人	0人	4人	7人	11人
------	-----	----	----	----	-----

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優、良、可、不可）で行っている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28人 (100%)	13人 (46.4%)	13人 (46.4%)	2人 (7.2%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>システム開発会社、システムインテグレータなど</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））《資格取得者数》</p> <p>基本情報技術者(国)17名、応用情報技術者(国)3名、ITパスポート(国)13名</p>			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
57人	4人	7.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的理由など		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	ソフトウェア制作学科 ゲームプログラム専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1920 単位時間	420 単位時間	680 単位時間	820 単位時間		
			1920 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人の内数		7人	0人	4人の内数	7人の内数	11人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要)

毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。

成績評価の基準・方法

(概要)

学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。

最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優、良、可、不可)で行っている。

卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4人 (0.0%)	4人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) システム開発会社、システムインテグレータなど			
(就職指導内容) 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等			
(主な学修成果（資格・検定等））《資格取得者数》 基本情報技術者(国)3名、ITパスポート(国)1名、情報検定(J検)5名など			
(備考)（任意記載事項）卒業生 4人全員 進学(大学編入)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業	工業専門	パソコン応用学科 ビジネス専攻	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
			講義	演習	実習

2年	昼	1830 単位時間	630	250	950		
			単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		1830 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人の内数	34人	0人	2人の内数	7人の内数	9人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優、良、可、不可）で行っている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	11人 (78.5%)	3人 (21.5%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>システム開発会社、運輸会社など</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等</p>			

(主な学修成果(資格・検定等)) 《資格取得者数》 ITパスポート(国)4名、マイクロソフトスペシャリスト試験6名、情報検定(J検)21名、 ビジネス能力検定(B検)21名、日商簿記10名、日商販売士検定9名等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32人	3人	9.3%
(中途退学の主な理由) 病気、進路変更など		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	パソコン応用学科 経理事務専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1935 単位時間	530 単位時間	445 単位時間	960 単位時間	単位時間	単位時間
			1935 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人の内数		8人	0人	2人の内数	7人の内数	9人の内数	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優、良、可、不可)で行っている。
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0.0%)	3人 (100%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) システム開発会社など			
(就職指導内容) 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等			
(主な学修成果（資格・検定等））《資格取得者数》 ITパスポート(国)1名、マイクロソフトオフィススペシャリスト試験1名、情報検定(J検)2名、ビジネス能力検定(B検)5名、日商簿記検定4名			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門	パソコン応用学科 医療事務専攻	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技

2年	昼	1890 単位時間	540	410	940		
			単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		1890 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人の内数	2人	0人	2人の内数	7人の内数	9人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生生活の手引き」に明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優、良、可、不可）で行っている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0.0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>薬局、病院</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等</p>			

(主な学修成果(資格・検定等)) 《資格取得者数》 マイクロソフトオフィススペシャリスト試験3名、情報検定(J検)2名、医療事務管理士認定2名等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
大学併修 学科	100,000円	364,000円	442,000円	実習費、施設費、維持費など
ソフトウェア 開発学科	150,000円	588,000円	482,000円	〃
ソフトウェア 制作学科	150,000円	588,000円	482,000円	〃
パソコン 応用学科	150,000円	435,000円	377,000円	〃
修学支援(任意記載事項)				
公募奨学生制度、資格取得特典制度、AO入学特典制度				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページアドレス https://www.ocs.ac.jp/other/j_koukai/6-2_jikohyouka_kai.pdf
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 企業等委員、卒業生委員および有識者委員から構成される委員会が、学校の自己評価結果をもとに、学校運営を評価する。 主な評価項目は、教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献である。 その評価結果を教育活動その他の学校運営改善等に生かし、学校運営の客観性と透明性を高めることを目的とする。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
特定非営利活動法人 I Tコーディネータ近畿会	R2. 5. 1～R3. 3. 31	有識者委員
株式会社 エスシーシー	R2. 5. 1～R3. 3. 31	企業委員
株式会社 まちんぐ	R2. 5. 1～R3. 3. 31	企業委員
有限会社 正行興産	R2. 5. 1～R3. 3. 31	卒業生
株式会社 スマレジ	R2. 5. 1～R3. 3. 31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページアドレス https://www.ocs.ac.jp/other/j_koukai/09_gakouhyouka.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページアドレス http://www.ocs.ac.jp/
--